

日中友好新聞

創刊 1955年

発行所 日本中国友好協会
〒111-0053 東京都千代田区千代田2-1-3
電話 03(5279)2141 FAX 03(5279)2141
http://www.jcfco.org.jp
E-mail: jcfco@jcfco.org.jp
社址 10119-1-2117

日中友好協会 岡山支部
〒709-0034 岡山市北区下伊福
西町1-59 民生会館1F
TEL: FAX 0861258-8408

日中友好協会 倉敷支部
〒713-8031 倉敷市福河町32461-41
TEL: FAX 0861411-7808

追悼 小林軍治先生 (日中岡山事務局長)

犬飼 繁

5月29日に小林先生の携帯から電話があった。実はこの4月1日に発足した日中友好協会岡山支部連合会で、小林先生は理事長、私が事務局長になり、4月の理事会では小林先生から指示を受けた私が会議の議案などを作成していた。電話は「検査入院のため6月の理事会には出席できないので、よろしく頼む。」という内容であった。

た。というのも非常にお元気だったからだ。新聞の発送作業を終えると、他の人たちが帰った後、私と小林先生で郵便局に新聞を持って行くのが習慣になっていた。小林先生が運転する車中でのいろいろな話をした。人生100年時代じゃからなあ。わしもチャレンジするからう。」「自分史を書くんじや。」「実際に高退教の会報に自分史を連載中だった」など自分の人生に意欲的に取り組む姿勢が鮮明だ



2017年「中国東北部を訪ね日中友好を促進する旅」九・一八記念館の前で後ろ右から2人目が小林さん

った。それだけにこの電話が小林先生との最後の会話になるなど思いもよらなかった。

私が小林先生の存在を知ったのは、1995年ちょうど戦後50年にあたるこの年、現在岡山支部の理事をされている曾田和子先生が岡山高教組本部におられ、戦後50年を期して、平和問題委員会として二つの企画をやるう。」「と提案され、その一つが「教職員からの平和メッセージ」という企画で、それに小林先生がすでにどこかで発表されていた『旧満州』からの引き揚げ」という文章を寄稿され、それを教職員からの平和メッセージの書式にあうように私が全文ワープロで打ち直したことがきっかけです。すごい体験をした先生がおられるんだなあ。」「とその文章を読んで思いました。その後、倉敷工業高校教職員対象の人権教育の講師として来ていただいたこともありました。

2003年、私は総社南高校に転勤になりました。それから1年も経たないうちに小林先生が中国からの帰国者のために国を相手に裁判を起こしたことを知りました。ああ、小林先生頑張っておられるんだなあ。私も何かお手伝いできたらいいんだが・・・。」「と思いつつ、まだ新しい

職場に慣れていなかった私は、学校のことだけで手いっぱい、何もできないままでした。

そして2015年3月、この月限りで退職を決めていた私は初めて高退教備南支部の交流会に参加しました。そこで難波娃子先生から私は戦後中国からの引き揚げ者で、日中友好協会の会員です。」「とお聞きし、私も仲間に入れてください。」「と申し入り、倉敷支部の会員になりました。ところが倉敷支部には知った人もなく、

日中友好新聞岡山の記事で岡山市役所で中国からの帰国者展を開催していることを知り、観に行ったりと、久しぶりに小林先生にお会いしました。小林先生は私が日中友好協会倉敷支部の会員になったことを喜んでいました。それから7月7日の盧溝橋事件や9月18日の柳条湖事件にかかわる岡山支部の街頭宣伝に参加しました。また、小林先生にあんたも中国百科検定を受けにやあいけん。」「と言われて、この年9月30日にあった第2回中国百科検定で、2級に満点合格しました。12月には岡山支部の望年会に参加し、コロナで望年会が開催されなくなった2020年まで5年連続で岡山支部の望年会に参加しました。また、岡山支部の総会に毎

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouhao.jinaa.net/>
メールアドレス
nicchukayama@yahoo.co.jp



年参加しています。2017年には小林先生や青木先生と一緒に小林先生が生まれた龍爪開拓団を訪ねる旅にも参加しました。このように退職後は、日中友好協会や高退教の活動などを通じて小林先生との付き合いは深まってきました。

そして2022年4月から日中友好協会岡山支部連合会でも力をお借りしてやっつけていく予定でした。検査入院と聞いても「たいしたことないだろう。」「と高をくくっていた私に真田支部長から「小林先生が亡くなった。」「というラインをもらった時は本当に驚きました。そしてつらく悲しく、信じられませんでした。私は小林先生が膵臓がんということを知りませんでした。実は小林先生が亡くなる一週間前の6月16日の毎日新聞に私の膵臓がん体験を語ることで患者の役に」という倉敷の介護タクシ一の運転手の方の記事が掲載されました。記事は4月21日嘔吐し、かかりつけ医で血液検査に異常な数値が見つかり、倉敷中央病院に救急搬送。胆汁が詰まるのを防ぐ内視鏡手術の数日後、膵臓にステージ4の癌があり、余命4か月と診断された。切除手術は不能な末期だった。

次ページへつづく

恩師への思い

令和4年7月15日

4月30日に胃と小腸をつなぐパイパス手術に成功、抗がん剤治療を受け5月9日に退院。今後も抗がん剤治療は続くがあきらめない。」というものの。小林先生が膵臓がんと知っていたら、この記事を持つて病院に駆け付けたのに。」という思いがこみ上げてきました。本当に残念でなりません。最後に、教職員からの平和メッセージに掲載された小林先生の『旧満州』からの引き揚げ』の最後の部分と皆さんを紹介して、追悼の文章といたします。

私たちに平和な未来を勝ち取るために、

一・天皇の名の下に政府や軍部が進めた、侵略戦争の国家責任を明確にする。

二・日本の独立と主権を侵害している『日米安全保障条約』を放棄し、在日米軍基地を撤廃する。

三・アジア諸国民2000万人以上、日本国民310万人以上の犠牲の上に成立した日本国憲法の平和主義、基本的人権の尊重などを守り発展させる。

以上を戦後五十周年にあたっての決意としたい。」

小林先生、先生の遺志をしつかり受け継いでいきます。安らかに眠りください。



小林軍治先生は私たちが尊敬する

日本語教室の先生です、そして私たちの人生の道を導いて下さった先生です。

私たちは帰国者3世です。自分の両親の老後生活を見て、帰国者一世と二世が直面する深刻な介護問題を身近に感じています。それで自分たちの介護に関する資格を活かして、帰国者の介護を支援する施設を立ち上げたいとの思いを先生と相談して、先生はいろいろな支援をして下さって、小規模多機能ホームの開設ができました。

今多くの帰国者が利用されています。先生の支援がないと、今の私たちの姿がないと思っています。

18年前、先生は帰国者訴訟の支援を始め、それから日本語教室の設立、介護問題の解決、そして帰国者2世の支援の呼びかけ等、帰国者の為に最後まで力を尽くして下さいました。

私たちは先生の思いを受け継いで、頑張つて行きたいと思っています。

天国の先生ありがとうございます。ゆつくり休んで下さい。

堀風才 紅霞

井

日中国交回復50周年記念講演会に向けて

第6回井笠支部準備会の報告

中友好協会岡山県支部連合会 宇野忠

7月19日、井原市出部公民館において、第6回井笠支部準備会が開かれ、参加者は井原市他(鳥越、木尾、原田、佐藤、三好、沖原)、岡山(河井、真田)、倉敷(犬飼、宇野)でした。

最初に、枯人となられた小林軍治さんに黙祷をささげ、第5回井笠支部準備会後の経過報告があり、国交回復50周年記念講演会について検討しました。

①時期は10月～11月、(11月3

日(木・文化の日)午後3時頃に決定)
②場所、井原市出部公民館、
③講師、大西広慶応大学教授を第一候補に、

④演題、日中両国関係をめぐる情勢―中国脅威論について―(台湾問題、人権問題、少数民族問題などについて報告をしていただく)。ズーム形式の講演会を検討。

⑤文化行事について、太極拳の演舞などを検討。写真などの展示も検討。

太極拳の全国指導員講習会

7月16日から18日に太極拳の全国指導員講習会に、岡山から5人参加してきました。

開催地は愛知県のホテル竹島でした。

私が参加した恒岡先生のグループでは骨や筋肉の話がありました。体内部で骨や筋肉がどう動いているのかを知るだけで、今まで上手く動か

せなかつた理由がわかるようになりま

⑥主催・後援体制については、日中友好協会井笠支部準備会・日中国岡山県支部連合会共催とする。井原市、井原市教育委員会の後援を得る。

⑦宣伝方法、チラシ、ポスター、呼びかけ団体、対象者、マスコミ対応については次回検討。

また、任務分担については、各参加組織・会員が次回具体的に検討。

次回の井笠支部準備会は、8月5日、午後2時、井原市出部公民館を予定。



次回の新聞送作業は
8月10日(水)午前10時半から
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方
です。

飼井内田
犬河竹真